緑の地球新聞

第147号　2020年1月5日発行：公益財団法人　緑の地球防衛基金

いま名もない砂漠がふえている
私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203
☎ 03（3297）5505　Fax 03（3297）5507
URL: https://green-earth-japan.net/
e-mail: defense@green.email.ne.jp
郵便振替口座　00110-9-161182　　定価　¥150

2019年度「地球にやさしいカード」助成金贈呈式／第13回研究・活動報告会を開催

緑の地球防衛基金は、2019年11月8日（金）、東京・中央区新川の馬事畜産会館2階会議室において、2019年度「地球にやさしいカード」助成金贈呈式および第13回研究・活動報告会を開催しました。

先ず、第1部の助成金贈呈式では、大石正光当基金理事長、池田明彦株式会社セディナ執行役員から挨拶が行われ、引き続いて、助成対象12団体に対して、大石理事長から2019年度上半期助成金目録が手交されました。

続く第2部の第13回研究・活動報告会では、今年度の活動報告のテーマである「生物多様性」を踏まえ2団体から報告が行われました。

助成金贈呈式の模様：サンクチュアリエヌピーオー馬塚理事長に目録を授与する大石理事長

先ず、「桶ヶ谷沼を考える会」の今村信大理事長から、「トンボの種の保全と自然環境を守る」と題して報告がありました。

静岡県磐田市にあるトンボの楽園「桶ヶ谷沼」には、絶滅危惧種ベッコウトンボをはじめ70種のトンボが確認され、奇跡の沼として現在も種の保全に多大の貢献をしています。

「桶ヶ谷沼を考える会」は1986年12月に設立されて今年で34年目になります。この間、1990年には桶ヶ谷沼が自然環境保全地域特別地区に指定され、1994年にはベッコウトンボが環境庁のレッドデータブックに指定され、種の保全への取組が強化されてきました。

桶ヶ谷沼を考える会では、1か所でのトンボの生息数が日本一の小さな沼で「トンボを守ろう！」ではなく、「日本一を、あなたはどうする？一緒に考えましょう！」と言い続けてきました。工業団地を作るのならそれでも良い。でもそれで良いのか、みんなで考えましょうと。

磐田市、磐田市青年会議所をはじめ、全ての関係する団体の活動に「トンボ」を組み込んでもらい、市民の心に「桶ヶ谷沼」「トンボ」を誇りに思ってもらう取組を長年進めてきました。今では、磐田市内の市営住宅の壁面や下水道マンホールのふたにベッコウトンボがデザインされ、トンボのお菓子にJAトンボ支店にと、磐田市は「トンボのまち」として市民の心の中に息づいています。

それでも種を保全する取組は大変です。1999年にアメリカザリガニが異常発生しベッコウトンボの確認数がわずか47頭に激減しました。この時には、「ベッコウトンボを救え」と県立磐田南高校生物部が環境庁へ許可申請をし、初めてベッコウトンボの採卵飼育増殖を行いました。桶ヶ谷沼を考える会でも木製生け簀を設置してベッコウトンボの増殖を図っています。水槽を屋外に設置し、周りの草を入れてトンボの生息できそうな場所を作ると、ベッコ

活動報告会の模様：報告者は桶ヶ谷沼を考える会今村理事長

ウトンボが来てくれます。ただ、5年経つ頃には他のトンボたちに住処を取られるので、新たに生息できる場所を用意する必要があります。

種の保全と周辺環境の保護・再生には取組の継続が何よりも重要です。次世代の子どもたちへの橋渡しのため2017年度に「おけがや自然塾」を開校し、環境教育の充実を図っています。

今村理事長は、美しい日本を、そして34年間取り組んできた活動を子どもたちに引き継いで行きたいと、話を締めくくられました。

次に、「虹別コロカムイの会」の舘定宣会長から、「国の天然記念物のシマフクロウ保護に向けた取組」と題して報告がありました。

シマフクロウは国の天然記念物で北海道道東を中心に生息数が165羽程度と推測されている絶滅危惧種です。虹別コロカムイの会は、シマフクロウの増殖を図るとともに、その採餌場となる河畔林の機能を「魚つき保安林」と位置付け、「シマフクロウ百年の森づくり」と賞する河畔林造成等に取り組んできました。その活動成果は、約8万4千本の植林、巣箱の架設・清掃維持活動などとなっており、その功績により「緑化推進功労者内閣総理大臣表彰（2009年）」など多くの賞を受賞しています。

舘会長からは、シマフクロウは翼を広げると1．8～2mに達しアイヌの神コタンコロカムイ（集落の守り神）であったこと、北海道各地に生息していたシマフクロウが森林伐採などのため1990年代に70羽程度に激減し絶滅の恐れがあったこと、こうした状況を憂慮し平成6年（1994年）に「虹別コロカムイの会」が立ち上げられたこと、シマフクロウの傷病個体（死体を含む）を保護・回収し、原因究明を行い（交通事故や電柱での感電事故、キツネの襲撃等で命を落とすケースあり）対策を講じるなど懸命の保護活動により、頭数は道東を中心に165羽にまで増えてきたことが説明されました。

また、毎年5月第3日曜日に行う植樹祭には、月曜日を代休にして地域の小学校が参加し、最近では苗木育成の段階から小学生が参加するなど地域ぐるみのイベントとなっていることが紹介されました。

さらに、これまで取り組まれてきた様々な活動として、西別川流域コンサートや摩周水環境フォーラム、摩周水系西別川流域かいわい会議（近隣の4町の首長が集まり環境問題を議論）、バイカモ保全の取組（シマフクロウの餌となる魚の隠れ場所となる。）にも言及し、話が締めくくられました。

研究・活動報告会終了後には、当基金や株式会社セディナへの質問や意見を述べる場として、また、助成団体同士の意見交換の場として、30分程度懇親会を開催しました。

全体で3時間の長時間にわたる会合でしたが、出席者は熱心に聞き入り、盛会のうちに終了しました。

長時間にわたる会合でしたが、出席者は熱心に聞き入っていました。報告者は虹別コロカムイの会舘会長

新年あけましておめでとうございます。

新年のごあいさつ

公益財団法人　緑の地球防衛基金
理事長　大石　正光

年を追うごとに被害が拡大している地球。予測できない自然災害が世界中に広がり、乾燥による山林火災が、世界各地で発生して、人間だけでなく、地球上に生息する動・植物を絶滅に追いやっています。

昨年の11月27日に開かれたEUヨーロッパ委員会ではじめての女性委員長になったドイツのフォンデアライエンは、就任演説で環境問題を最優先課題に取り上げて気候変動問題を真っ先に取り組むと強調しました。地球温暖化で二酸化炭素の排出国で中国に次ぐアメリカのトランプ大統領が「気候変動締結国会議」から離脱すると宣言して、二酸化炭素の排出量の規制をやめました。温暖化現象が進んでいる中で、5億人の人口を抱えているヨーロッパのリーダーが次世代の子供たちへの責任として、この難問題を解決されるよう心から期待しています。

日本はかつて地球温暖化問題に真剣に取り組んでいましたが、安倍総理はアメリカ追従のような対応ばかりが目立ちます。「京都議定書」に代表される日本は、自動車の排気ガスだけでなく石炭火力発電の削減などいくらでも取り組める課題のはずです。言葉だけでなく、真剣にこの問題に取り組まれるよう希望してやみません。

わが財団は、30年ほどの「タンザニア・モデル事業」を終了して、あらたにベトナム・ラオカイでの植林に取り組もうとしております。本年も皆様にとりまして、良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

「地球にやさしいカード」2019年度助成団体紹介

熱帯森林保護団体の活動

熱帯森林保護団体は、1989年からアマゾンの自然保護とその地で暮らす先住民（インディオ）存続支援を目的として活動しています。

急速に減少する熱帯林の現状

2019年1月から8月の間にアマゾンの森は、九州全土に相当する面積が消失しました。その最大の原因は、森を牧場造成や大豆畑にすることを奨励するブラジル政府の政策が反映しています。高温（日中は50℃位）で湿度は10％と過酷な自然環境のため、一度出火すると消火は不可能になり、火は帯状に森を舐め尽くします。土地所有者は森林面積の80％を残すとの法律があるにもかかわらず、現状は守られていません。今年の森林火災は未だかつてないほど火の勢いが激しく、昨年の200％を超す火災で、何千キロも離れたサンパウロまで一時的に煙で暗くなるほどでした。森を壊し大豆畑で収穫した大豆の80％、牛肉の40％が中国に輸出されています。日本は加工した鶏肉を使用するファーストフード等の98％をブラジルから輸入しており、鶏の飼料として大豆の殻を使いますので、結果的にアマゾンの森林の消失に日本人も関わっていることになります。地球上の酸素供給源であるアマゾンの森は、先進国の人々の胃袋を満たすために消失しています。

先住民のプライドをかけた命がけの戦い

支援対象地域のシングーインディオ国立公園は、ブラジル政府が正式に承認したエリアで、部外者は滞在許可証を所持しない限り立入禁止ですが、この地域に生息する珍しい動植物を乱獲、乱伐する不法侵入者が後を絶ちません。密猟者が野宿し火の不始末から火災が発生する場合もあります。また、支援対象地域を横切る州道を通る大型トラックからのたばこの投げ捨てや、放置された空き缶が直射日光により火がつき甚大な火災になるケースもあります。

シングー川中流域で火災が発生しインディオ消防士が消火活動を実施（2019年9月）

2015年に、火災から森を守る目的で、この地域に暮らすカヤポ族とジュルーナ族の若者で組織する消防団結成の支援を、カヤポ族のリーダーから熱帯森林保護団体に対し強い要望があり、支援を開始しました。

14集落から招聘された10代から30代の若者15名で当初は組織し、森林監視場所があるピアラスに集まり、ブラジル軍消防署の専門家が約1か月間防火・消火の訓練講義を実施し、終了後は各集落に戻りその周辺を監視し火災時に迅速に対応できるノウハウを習得しました。今年から新たな消防団員が加わり、総勢33名とますますパワーアップしています。

アマゾンのような広大でアクセスが非常に困難な森では、いったん火が燃え上がってしまえば手の施しようがありません。森林火災で一番重要なのは、火を出さないことです。消防団では、乾期の終わりに村々で行われる伝統的焼畑の火入れに際して、延焼を防ぐ万全の対策として火入れの前に緩衝地帯を設け、この作業に立ち入っています。また、州道に防火を呼びかける看板を立てたり不法侵入者が立ち入らないようにパトロールを開始しました。

ピアラスにおいて消防団員講習時の記念撮影（2019年9月）

団員一人一人が、かろうじて残された保護区の森を守り抜く

年々環境が悪化する中で、消防団の若者たちは、時には命の危険に晒されるような過酷な活動に果敢に立ち向かっています。「自分たちの森は自分たちで守る。アマゾンの森は地球の財産だ。それを僕たち森の民がプライドをかけ守る」支援の場で熱帯森林保護団体が大切にしていることは、「プロタゴニズモ」という運動のあり方で、これは課題や問題を彼ら自身が主体的に考え、解決の道を模索していくことを助けるということです。

2017年、支援対象地域のシングーで大火災になり、全体の15％が消失しましたが、この消防団が活躍する地域は大火になる前に鎮火しました。このことがブラジル国内で評価され、消防団のリーダーは各都市でこの事業成果を発表する機会が増え、他部族のインディオ消防団組織を設立することに貢献しています。

2020年度「地球にやさしいカード」の助成14団体決まる

株式会社セディナの「地球にやさしいカード」からの寄付金を財源とする2020年度助成対象団体の選定については、昨年8～9月に応募があった18団体を対象に、11月の審議委員会の慎重な審査を経て、同月の理事会で14団体の事業に助成することに決まりました。

① **認定NPO法人FoEJapan**（パリ協定実施スタートを見据えた地球温暖化対策強化・エネルギー政策転換のための提言・普及啓発活動）

② **NPO法人熱帯森林保護団体**（ブラジル・カポトジャリーナ先住民族保護区の消防団消火・消防事業）

③ **NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク**（自然環境教育事業、尾瀬の自然保護に関する調査研究、自然環境保護に関する普及啓発事業）

④ **NPO法人立山自然保護ネットワーク**（立山黒部アルペンルート沿線の外来性植物除去事業及び啓発活動）

⑤ **NPO法人夏花**（石垣島白保地区におけるサンゴ礁保全活動）

⑥ **認定NPO法人ヒマラヤ保全協会**（ネパールダウラギリ地方レスパル村（他2村）緑化再生プロジェクト）

⑦ **NPO法人サンクチュアリエヌピーオー**（遠州灘海岸におけるアカウミガメと産卵地の環境保護と調査活動）

⑧ **NPO法人桶ケ谷沼を考える会**（トンボの種の保全と自然環境を守る）

⑨ **上総自然学校**（トンボの保護区を守る）

⑩ **認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金**（アフリカゾウ密猟防止）

⑪ **真庭遺産研究会**（水と緑の回廊再生による日本最大級のオオサンショウウオの生息地での環境保全活動）

⑫ **虹別コロカムイの会**（シマフクロウ繁殖と河畔林造成）

⑬ **NPO法人サヘルの森**（マリ共和国における劣化した里山の再生試験）

⑭ **熱帯林行動ネットワーク**（インドネシアにおけるオランウータン保護活動の基盤強化に向けた植林活動）

2017年度の温室効果ガス排出量は前年度比1．2％の減少

2019年11月、環境省は2017（平成29）年度の我が国の温室効果ガス排出量を公表しました。

2017年度の排出量は、12億9，200万トン（CO_2換算）で、前年度比1．2％減。2013年度以降5年連続での減少となりました。

しかし、政府は温室効果ガス排出量を、2030年度までに2013年度比で26％削減するとの目標を掲げています。今回の数値は2013年度比8．4％の減少に止まっており、今後一層の削減が求められます。

たくさんの使用済み切手などありがとうございました

使用済み切手等売上表
（9月16日～12月15日）

未使用テレホンカード	25,000 円
未使用／使用済切手	305,579 円
未使用／書き損じハガキ	20,052 円
外国コイン＆紙幣	0 円
合　　計	350,631 円

使用済み切手等協力者（9月16日～12月15日敬称略）

石丸祐弘、市川浩一、一柳清美、伊藤富実子、魚森美津子、大山昌克、黒澤一雅、小松原誠、椎名宏子、下田正枝、円谷光行、中泉亜紀、福田順子、藤野拓也、山口元子、和田美紀子、匿名

同法人・団体協力者（9月16日～12月15日敬称略）

㈱朝日工業社、安藤産業㈱、石川県社会福祉協議会、㈱ウテナ、㈱FTHRプロフェショナルズ、㈱エム・シー・スクエア、共和食品㈱、近畿容器㈱、光陽精機㈱つくば工場、コニシセイコー㈱久御山工場、齊藤建設㈱、シーキューブ㈱、㈱JM九州FC会、㈱乗馬クラブクレイン、新谷建設㈱、生長の家岩手県教化部白鳩会、ソフトプレン工業㈱、㈱大気社東北支店、大成有楽不動産㈱、「小さな親切」運動奈良県本部、津幡町社会福祉協議会、有限責任監査法人トーマツ、戸田建設㈱、中津沖代ライオンズクラブ、七尾市社会福祉協議会、ニッパツ・メック㈱、日本郵便㈱市川大洲郵便局、日本ユニシス労働組合、練馬城南住宅組合、日立金属労働組合土浦支部、富士通㈱、富士通㈱静岡支社、㈱富士通パーソナルズ、㈱ホンダカーズ伊勢志摩、宮城県高等学校教職員組合、㈱ミライト・テクノロジーズ緑の会、輪島市社会福祉協議会

寄付協力者（9月16日～12月15日敬称略）

飯塚友康、石本信二、大渕清孝、小松原誠、㈱正宝住販、㈱セディナ、田中和子、ボランティアベンダー協会、森口修、渡邉公伸

事務局からのお願い

全国の皆さま、いつも使用済み切手などをお送り下さりありがとうございます。

当基金では、皆さまからお送りいただいた「未使用／使用済み切手」「未使用／書き損じハガキ」「外国コイン＆紙幣」の売上金を植林活動等に役立てていますが、最近減少気味です。

皆さまからのご協力をお待ちしています。